

あとがき

＜編集顧問＞

太田 保世
諏訪 邦夫
広沢弘七郎
堀江 孝至
村山 正博

＜編集委員＞

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

＜編集協力委員＞

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

心(こころ)にはたくさんの意味がある。広辞苑によれば、①人間の精神作用のもとになるもの、②人間の精神作用そのもの、③知識・感情・意思の総体、④思惑、⑤気持ち、⑥思いやりや情け、などを表す。他に、趣や趣向、意味、物の中心なども意味する。

心臓病になるとこの心も病んでいく。私達の調査では22%の循環器疾患患者が心の病を訴える。多くはうつ状態にある。心臓病は心臓の存在を持ち主に伝える。持ち主は心臓の存在に気付く。若かりし頃には全く覚えのない感触である。しかも、胸痛や呼吸困難、動悸、失神など傷ついたとの心臓の叫び、自己主張である。新たな感触と新たな叫びは間違いなくそこはかといふ不安を呼び起こす。しかも、“心臓由来だ”と気がついた途端、それは死への不安へと転化し、一気に加速する。さらに心無い医療従事者の一言が追い討ちをかける。“このままではあなたの余命は5年以内です”。

一方、患者さんのほうも、こうでもならない限り“心臓は永遠に鼓動し血液を拍出する”と思い込んでいる節がある。それでも、高齢者の心の病はそれほど深刻にはならないであろう。何時かはこうなると隣人の生物たちが絶え間なく教えてくれているし、対応の仕方も経験上學んでいる。注意が必要なのは壮年者の心臓病である。何の恐怖を感じることもなく平穏な家庭生活や社会生活を満喫し、タバコや飲酒、それにグルメに興じていたヒトほどパニックに陥る。心臓リハビリテーションがより包括的な介入を求められる所以である。

6カ月の心臓リハビリテーション介入でも治療効果の芳しくない患者や、回復期心臓リハビリテーションから心の病のために脱落する例が後を絶たない。だからこそ、急性早期からの心臓リハビリテーション介入が必要と主張する。なのに、この国は未だに20%にも満たない心臓リハビリテーション施設の普及度である。今回のテーマ、難治性慢性心不全の再発や発症を予防するためにも、この普及度を高めることがぜひとも必要な目標のひとつである。施設数や地域分布を垣間見るたびに、嘆息しているのは私だけであろうか。

(和泉 徹)

呼吸と循環 (第56巻 第4号)

2008年4月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2008年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS＜(株)日本著作出版権管理システム委託出版物＞

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。